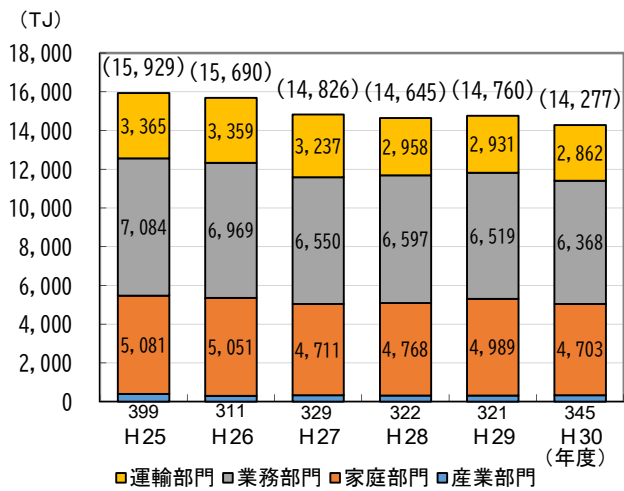


資料編

1. エネルギー消費量の動向

(1) 豊島区の現状

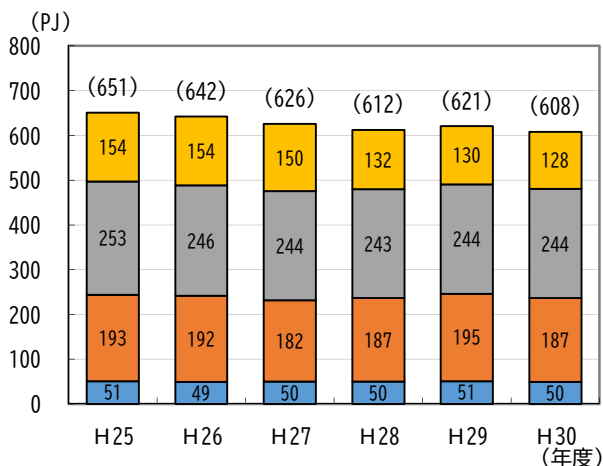


平成 30 年度のエネルギー消費量は前年度比 3.3%減の 14,277TJ でした。平成 29 年度は前の年度に比べ少し増加しましたが、近年は減少傾向が続いています。省エネ行動の定着、省エネ機器等の普及などによるものと考えられます。

会社や学校、商業施設などの「業務部門」と「家庭部門」が 3/4 以上を占めています。

(出典：オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」 「特別区の温室効果ガス排出量」を元に作成)

(2) 東京都の現状

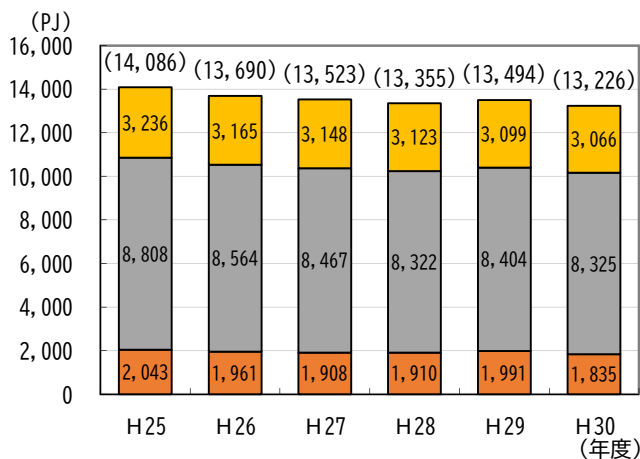


平成 30 年度の東京都のエネルギー消費量は 608PJ でした。区と同様に平成 29 年度は平成 28 年度に比べ少し増加していますが、近年は減少傾向が続いています。

東京都も、企業や事業所など「業務部門」でのエネルギー消費量が 1 番多くなっています。

(出典：東京都環境局「都における最終エネルギー消費量及び温室効果ガス排出量総合調査」を元に作成)

(3) 国の現状

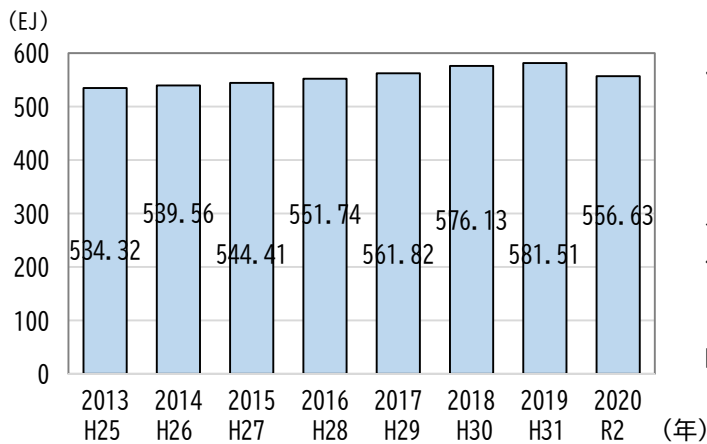


平成 30 年度の国全体のエネルギー消費量は 14,086PJ でした。区や東京都と同様に平成 29 年度は平成 28 年度に比べ少し増加していますが、近年は減少傾向が続いています。

国全体も、企業や事業所などでのエネルギー消費量が 1 番多くなっています。

(出典：資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」を元に作成)

(4) 世界の現状



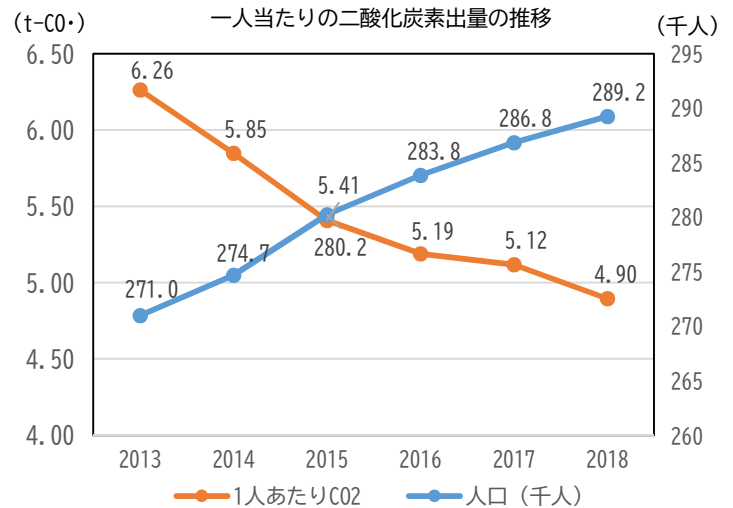
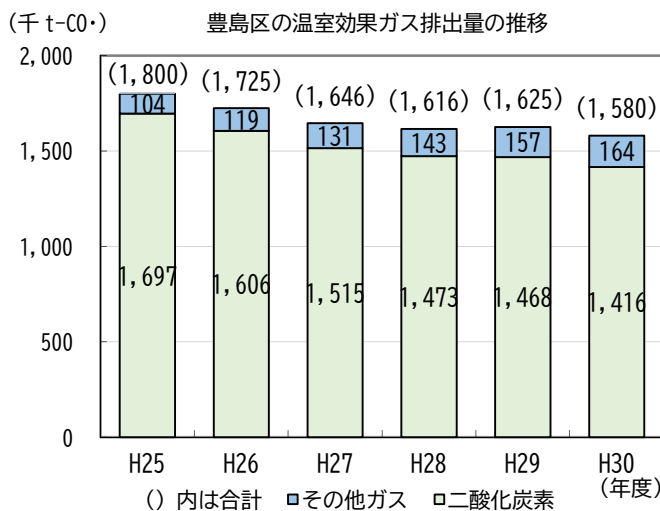
平成 30 年度の世界全体のエネルギー消費量は 576.13EJ でした。

2019 年までは上昇傾向にありましたが、2020 年は新型コロナウイルス感染症の影響により、4.3%減少しました。

(出典：BP「Statistical Review of World Energy 2021」を元に作成)

2. 温室効果ガス排出量の動向

(1) 豊島区の現状



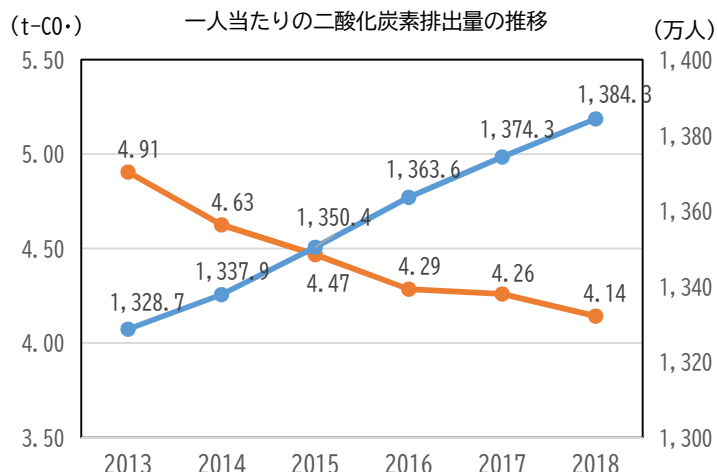
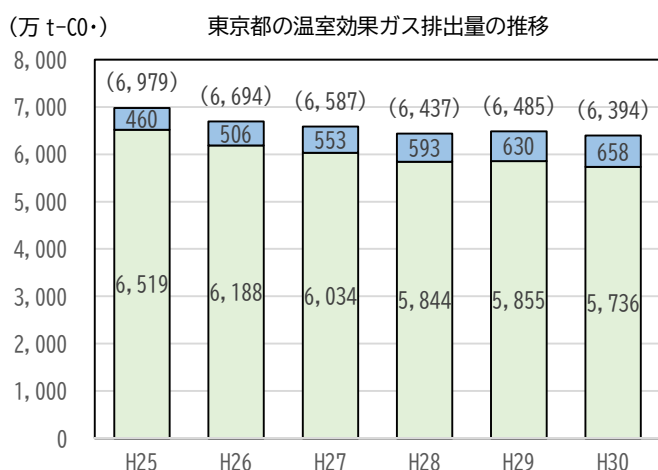
(出典：オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」「特別区の温室効果ガス排出量」及び住民基本台帳による人口数を元に作成)

※一人当たりの温室効果ガス排出量は【10月1日時点の人口/CO₂排出量】で計算

平成 30 年度の温室効果ガス排出量は前年度比 2.8%減の 158 万トンでした。このうち、約 9 割を占めるのが二酸化炭素です。エネルギー消費量と同様に、平成 29 年度は平成 28 年度に比べ少し増加しましたが、近年は減少傾向が続いています。エネルギー消費量や電気 1kWh あたりの二酸化炭素排出量の減少等によるものと考えられます。

平成 30 年度の 1 人当たりの二酸化炭素排出量は 4.9 トンでした。二酸化炭素排出量が減っていること、人口が増えていることにより、1 人当たりの排出量も年々減少しています。

(2) 東京都の現状



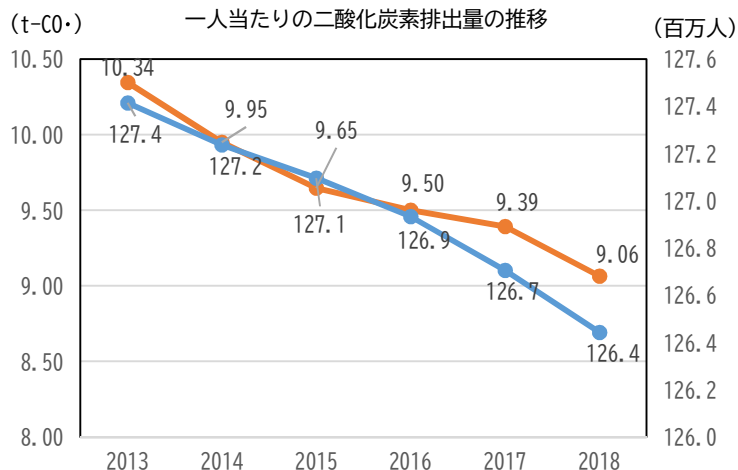
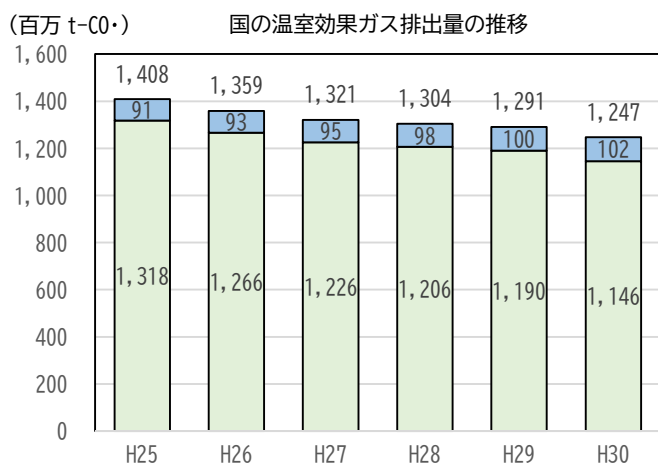
(出典：東京都環境局「都における最終エネルギー消費量及び温室効果ガス排出量総合調査」及び東京都総務局「東京都統計年鑑」を元に作成)

※一人当たりの温室効果ガス排出量は【10月1日時点の推計人口/CO₂排出量】で計算

平成30年度の東京都の温室効果ガス排出量は6,394万トンでした。区と同様に、東京都も約9割を占めるのが二酸化炭素です。近年は減少傾向が続いています。

平成30年度の東京都の一人当たりの二酸化炭素排出量は4.14トンでした。区と同様に、東京都でも年々減少しています。

(3) 国の現状



(出典：国立研究開発法人 国立環境研究所「温室効果ガスインベントリオフィス」 「日本の温室効果ガス排出量データ」及び総務省統計局「人口推計」を元に作成)

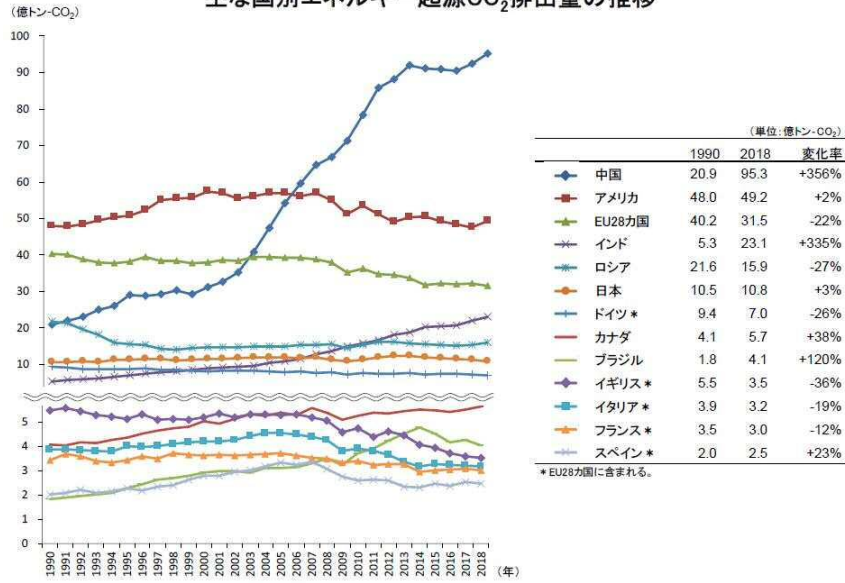
※一人当たりの温室効果ガス排出量は【10月1日時点の推計人口/CO₂排出量】で計算

平成30年度の国全体の温室効果ガス排出量は12億4,700万トンでした。区と同様に、国も約9割を占めるのが二酸化炭素です。近年は減少傾向が続いています。

平成30年度の国全体での一人当たりの二酸化炭素排出量は9.06トンでした。区と同様に、国でも年々減少しています。

(4) 世界の現状 (二酸化炭素排出量)

主な国別エネルギー起源CO₂排出量の推移



平成 30 年度の世界全体の二酸化炭素排出量は 335 億トンでした。

日本は、中国、アメリカ、インド、ロシアに次いで世界で 5 番目に排出量の多い国です。

(出典:環境省「世界のエネルギー起源 CO₂排出量 2018 年」)

3. 大正大学学生ワークショップの実施結果について

(1) 開催概要

区内大学生との意見交換を通じて、区が2050年ゼロカーボン達成に向け、若年層の意見を詳しく把握するとともに、その実現のために区民等が実践すべき行動を検討し、区の環境施策に反映することを目的として開催しました。

項目	内容
実施日	令和3年7月30日(金) 13時~17時40分
場所	大正大学
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・大正大学 社会共生学部の学生 24名 ・大正大学 社会共生学部 高橋教授、本田准教授、柘野講師 ・一般財団法人 日本気象協会 古賀氏(講師) ・豊島区 環境清掃部 環境政策課 職員 5名
テーマ	「気候変動、地球温暖化防止のために、わたしたちができること」
内容	<p>前半：講義</p> <p>①気候変動について考える(日本気象協会 古賀氏による講義)</p> <p>②ゼロカーボンシティの実現に向けて(環境政策課職員による講義)</p> <p>後半：グループワーク</p> <p>①2050年ゼロカーボン達成時のまちのイメージ</p> <p>②若者がゼロカーボンに取り組むとしたら、どんなことを重点的に行うか</p>
形式	・1~4年生各1名ずつ計4名の6グループを構成

(2) ワークショップの様子



(3) 意見整理の結果

テーマ① 2050年ゼロカーボン達成時のまちのイメージ

ゼロカーボンを達成時に、まちはどのような姿になっているかを考えてみました。

若者の提言（一部抜粋）

- ・広い場所や見通しがよいところに風力発電機が設置され、自然風やビル風を有効活用
- ・電気自動車が主流になっている！
- ・建物の屋上には、ソーラーパネルが設置され、電力の自給自足が進んでいる
- ・環境教育が充実している
- ・屋上緑化、街路樹、公園など、まちが緑であふれている
- ・分別を意識し、物を大事にする人が増えている
- ・環境に配慮した企業を優遇、誘致し「環境のまち・豊島区」となっている


若者の2050年ゼロカーボン達成時のまちのイメージ図

テーマ② 若者がゼロカーボンに取り組むとしたら、どんなことを重点的に 行うか

若者の提言（一部抜粋）

- ・興味を持ってもらうためのインセンティブ（電気代が昨年より低かったら景品をあげるなど）
- ・排気ガス削減（公共交通機関の利用促進、自転車走行レーンの拡大）
- ・テレワークの推奨により通勤時のCO₂排出量削減
- ・緑化（節電だけでなく、緑化を用いてブランディングすることで観光資源としても利用）
- ・食品ロス対策（廃棄のコスト、過剰発注によるコスト削減にも繋がる）
- ・ごみを減らす（フリマアプリ、リサイクルショップの活用等）
- ・親しみやすい情報発信（環境について喋るゆるキャラ、アニメや漫画とのコラボ）

(4) まとめ

「ゼロカーボンを目指す」というと、どうしても省エネに視点がいきがちですが、リサイクルやごみを減らすといった発想が出たことは、若者ならではの柔軟な視点でした。ワークショップで出た意見については、本戦略に可能な限り反映し、反映した部分には、マークをつけて分かりやすく表示しました。

4. 区民アンケートの実施結果について

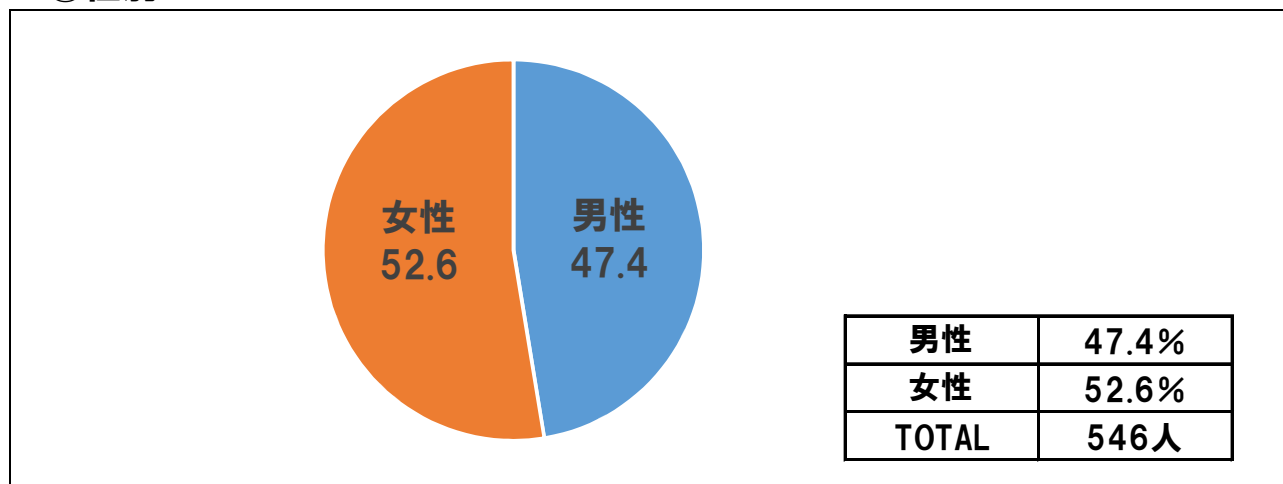
区民が気候変動の影響をどのように捉え、今後区にどのような対策を取ってほしいかの意向を把握するとともに、家庭における省エネの取り組み状況について把握することを目的に、インターネットアンケートを実施しました。

(1) アンケートの実施概要

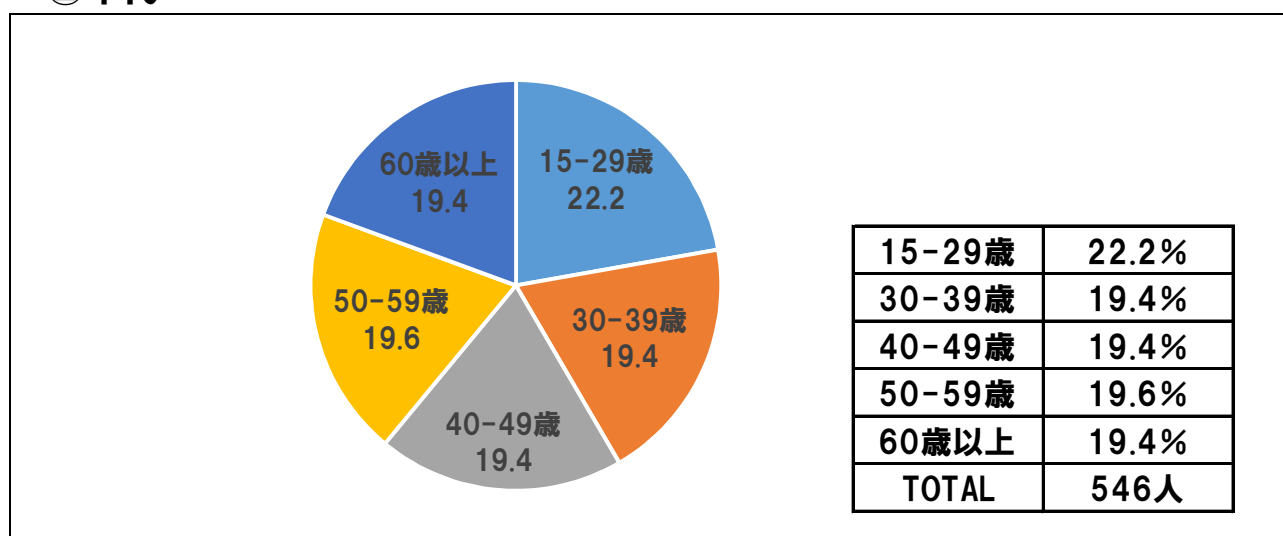
調査名	令和3年度 気候変動に係るインターネットアンケート調査
調査期間	令和3年10月8日～10月13日
調査方法	インターネット調査
調査対象	豊島区在住のインターネットアンケートモニター
回答者数	546名

(2) 回答者の属性

①性別

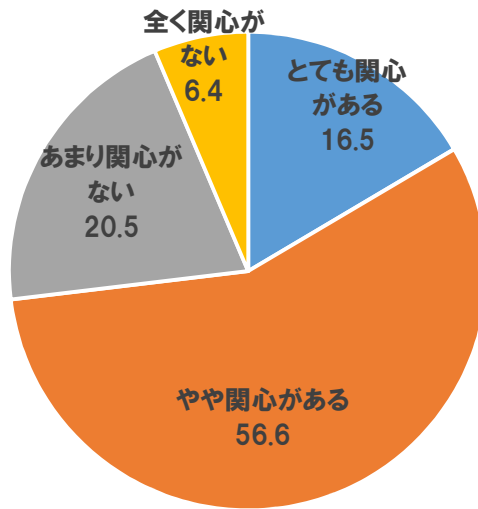


②年代

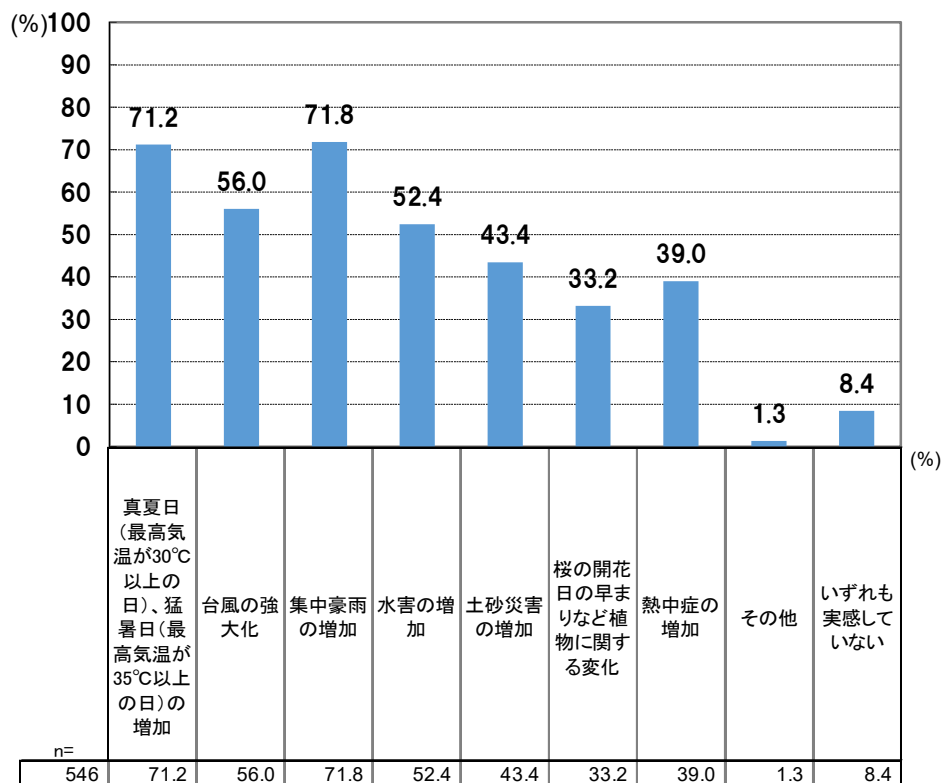


(3) アンケートの実施結果

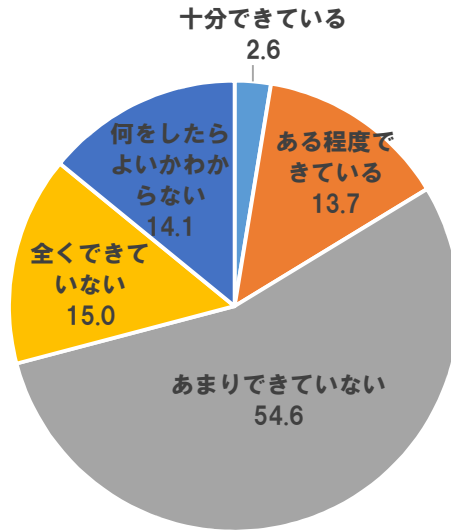
Q1	あなたは、地球温暖化問題について関心がありますか。
結果概要	「とても関心がある」、「やや関心がある」と回答した方は、合わせて 73.1% でした。多くの方が地球温暖化問題についての関心を持っていることが分かりました。



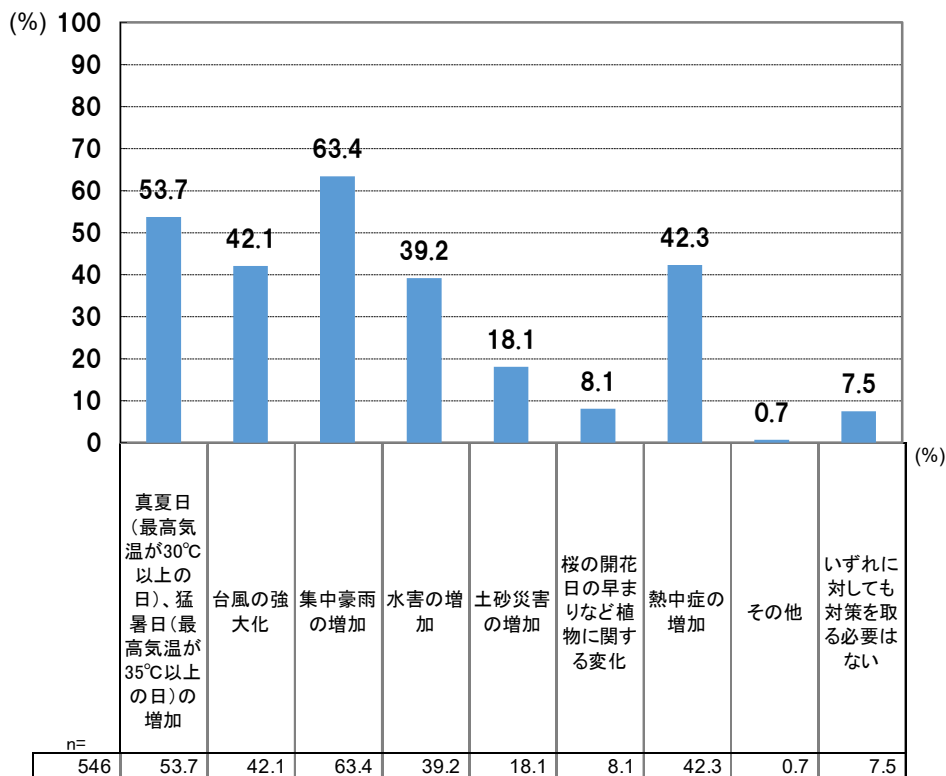
Q2	あなたは、以下のような地球温暖化に伴う気候変動の影響をここ 3 年で実感していますか。(複数選択可)
結果概要	気候変動の影響の実感は、「集中豪雨の増加」が 71.8%、「真夏日、猛暑日の増加」が 71.2%と高い結果となりました。



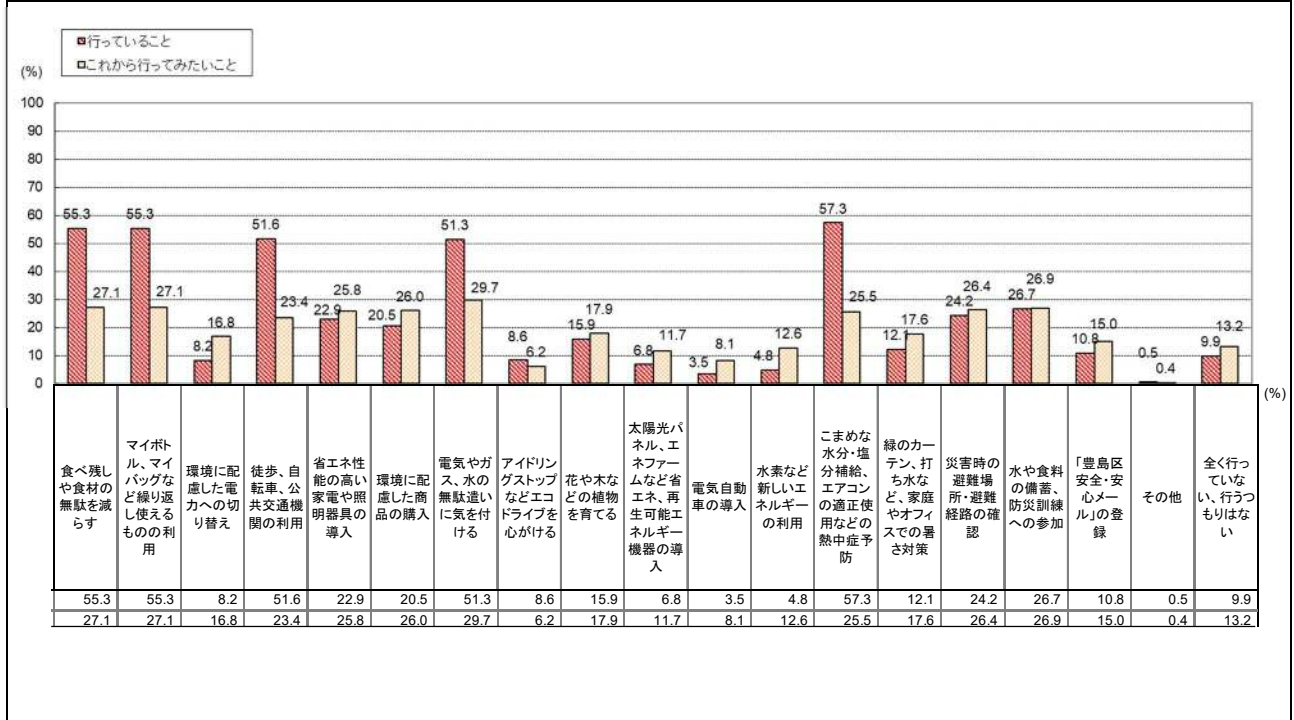
Q3	あなたは気候変動の影響に対する備えができていますか。
結果概要	「あまりできていない」、「全くできていない」、「何をしたらよいかわからない」と回答した方は合計で 83.7%でした。気候変動に対する備えは、できていない方が多いことが分かりました。



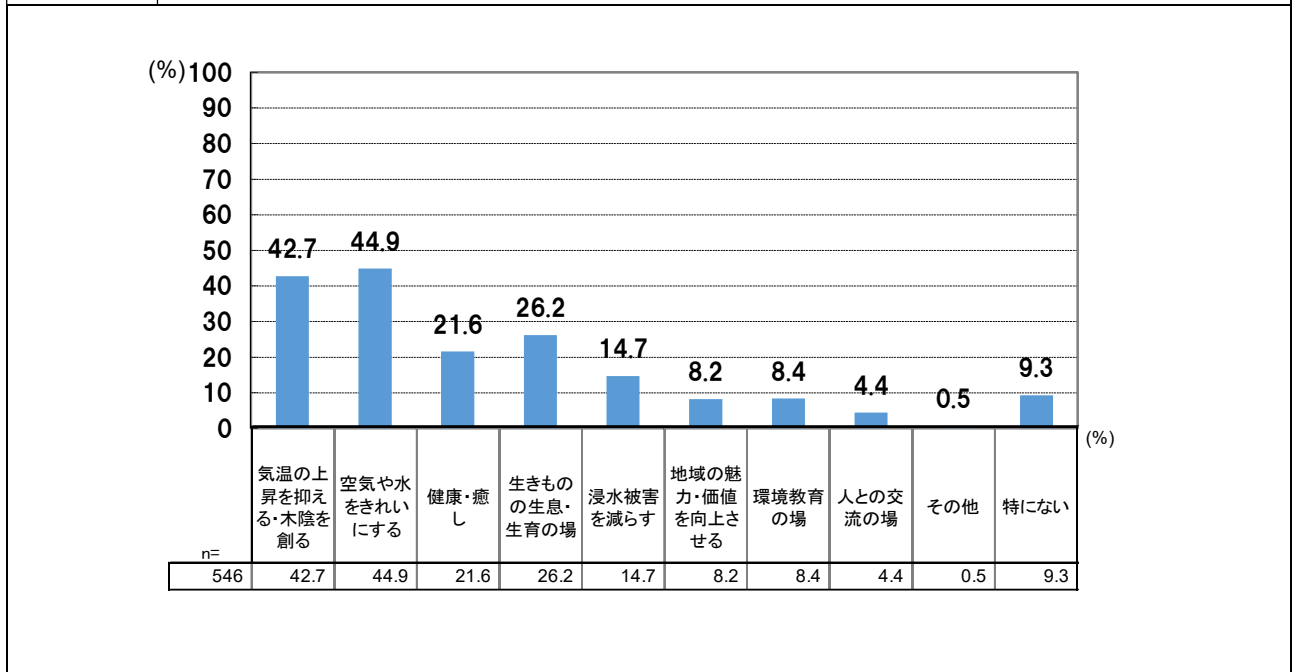
Q4	下記のような気候変動の影響のうち、今後豊島区は、どの影響に対して対策を取っていくべきだと思いますか。(複数選択可)
結果概要	豊島区が今後取るべき対策は、「集中豪雨の増加」と回答した方が 63.4%で一番多く、次いで「真夏日、猛暑日の増加」が 53.7%という結果となりました。



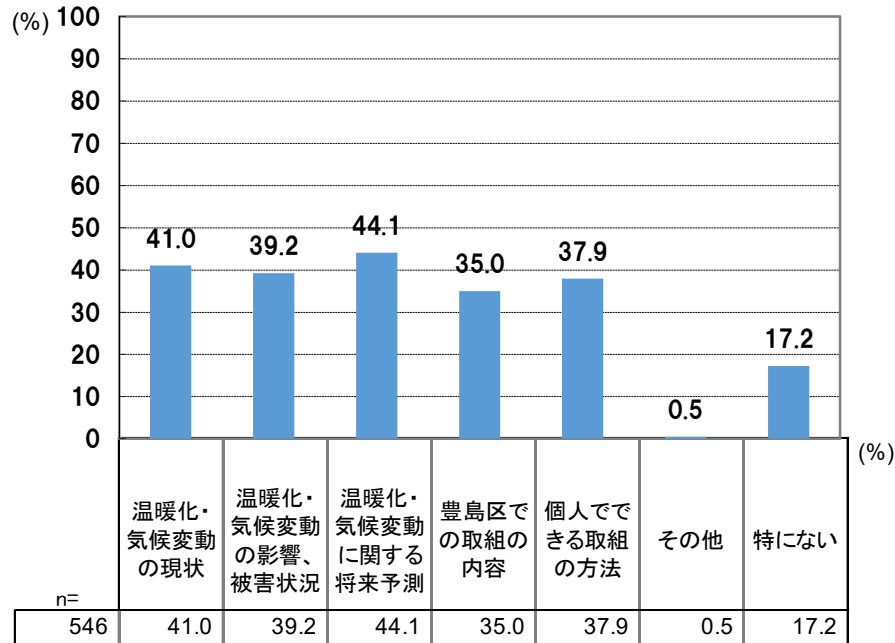
Q5	地球温暖化の防止や気候変動対策のために、あなたが行っていること、未来に向けてこれから行ってみたいことはありますか。(複数選択可)
結果概要	「熱中症予防」、「食べ残しや食材の無駄を減らす」、「マイボトル・マイバッグなどの利用」については、半数以上の方が行っていることが分かりました。未来に向けてこれから行ってみたいことは、「電気やガス、水の無駄遣いに気を付ける」が29.7%で一番多い結果となりました。



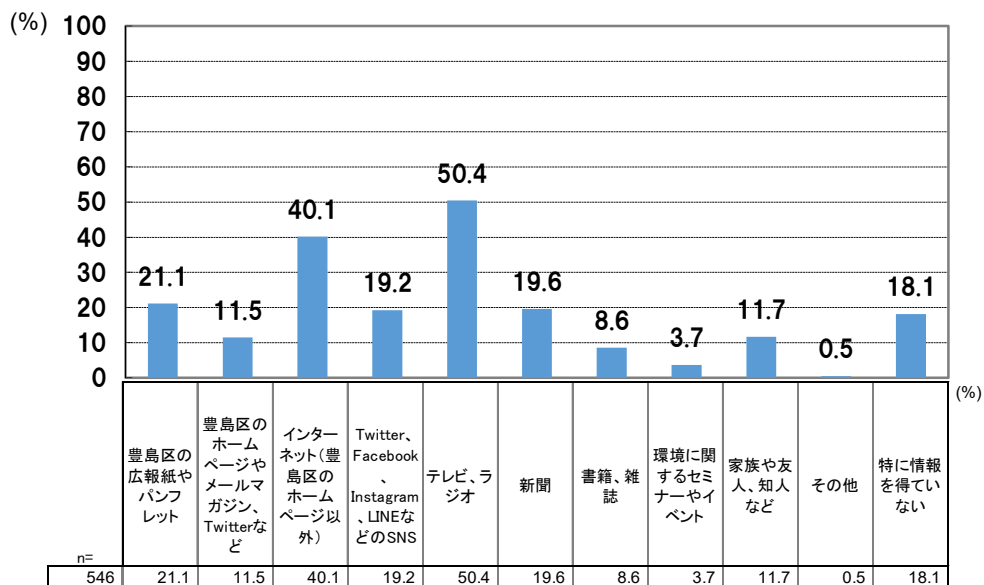
Q6	身近な自然が果たしている役割として、重要だと考えているものを2つまで教えてください。(2つまで選択可)
結果概要	自然が果たしている重要な役割は、「空気や水をきれいにする」が44.9%、「気温の上昇を抑える・木陰を創る」が42.7%と多い結果となりました。



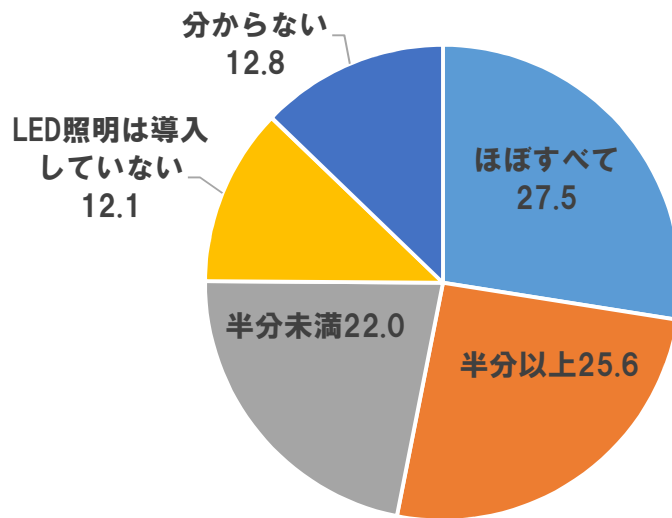
Q7	あなたは、地球温暖化や気候変動に関して、どのような情報を入手したいと思いますか。（複数選択可）
結果概要	入手したい情報は、「温暖化・気候変動に関する将来予測」が44.1%と一番多く、次いで「気候変動の現状」が41.0%、「温暖化・気候変動の影響、被害状況」が39.2%という結果となりました。



Q8	あなたは、環境に関する情報を主にどこから得ていますか（複数選択可）
結果概要	「テレビ、ラジオ」から情報を入手している方が50.4%と一番多く、次いで豊島区のホームページ以外の「インターネット」が40.1%という結果でした。「区の広報紙やパンフレット」は21.1%、「区のホームページやメールマガジン、Twitterなど」は11.5%と低い結果であり、さらに普及啓発が必要であることが分かりました。

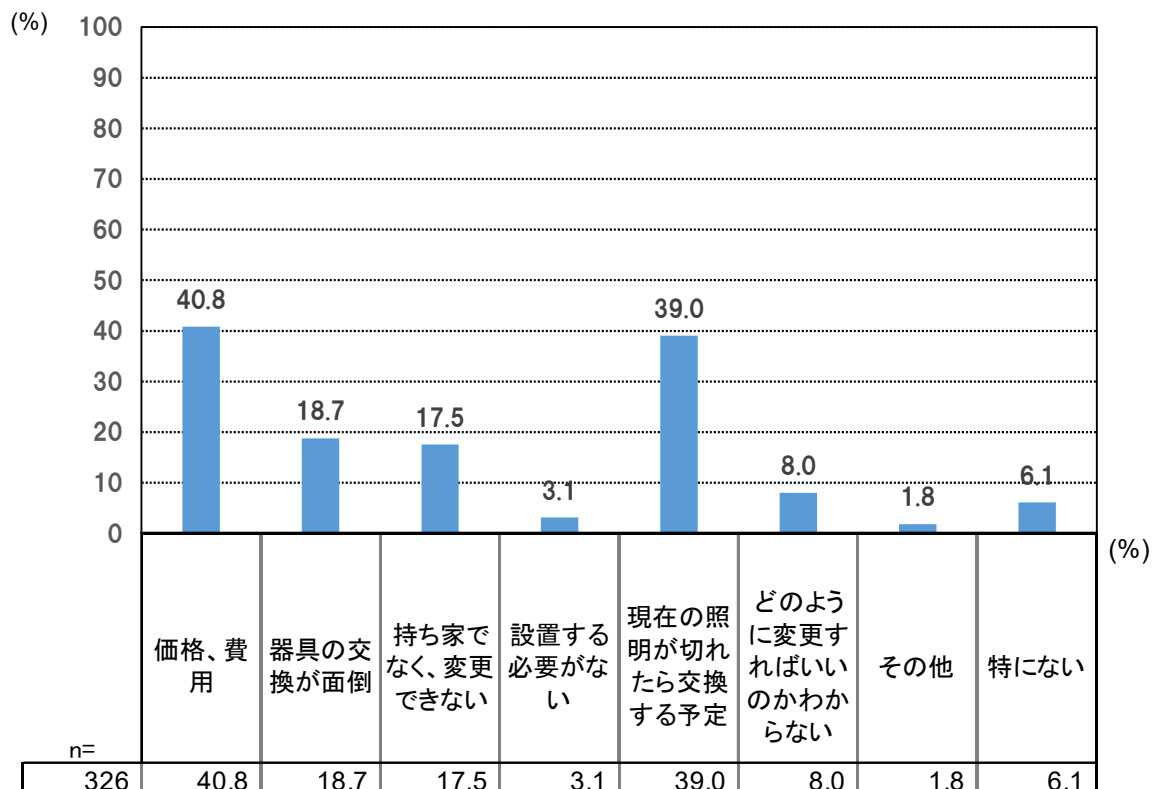


Q9-1	家庭の照明はどの程度 LED 照明にしていますか。
結果概要	「ほぼすべて」LED 照明にしている方は全体の 27.5%でした。今後も LED 照明への移行について、引き続き普及促進が必要であることが分かりました。

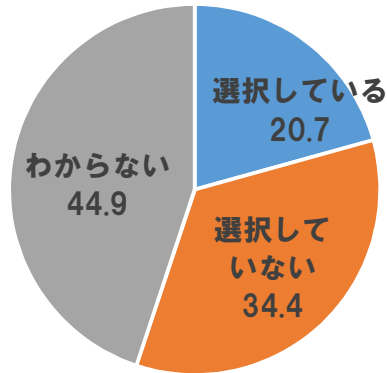


Q9-2	前問で「②半分以上」「③半分未満」「④LED 照明は導入していない」と回答した方にお伺いします。 LED 照明の導入にあたって支障となることは何ですか。(複数回答可)
------	--

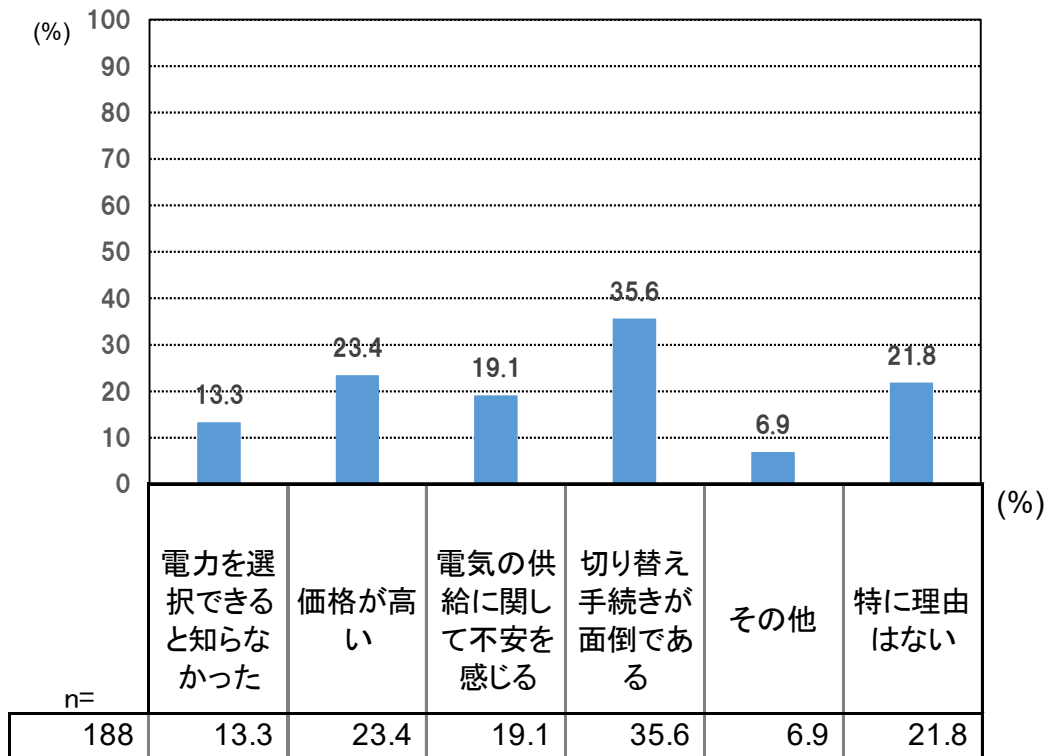
結果概要	「価格、費用」が 40.8%で一番多い結果でした。一方、「現在の照明が切れたら交換する予定」の方も 39.0%いることが分かりました。
------	---



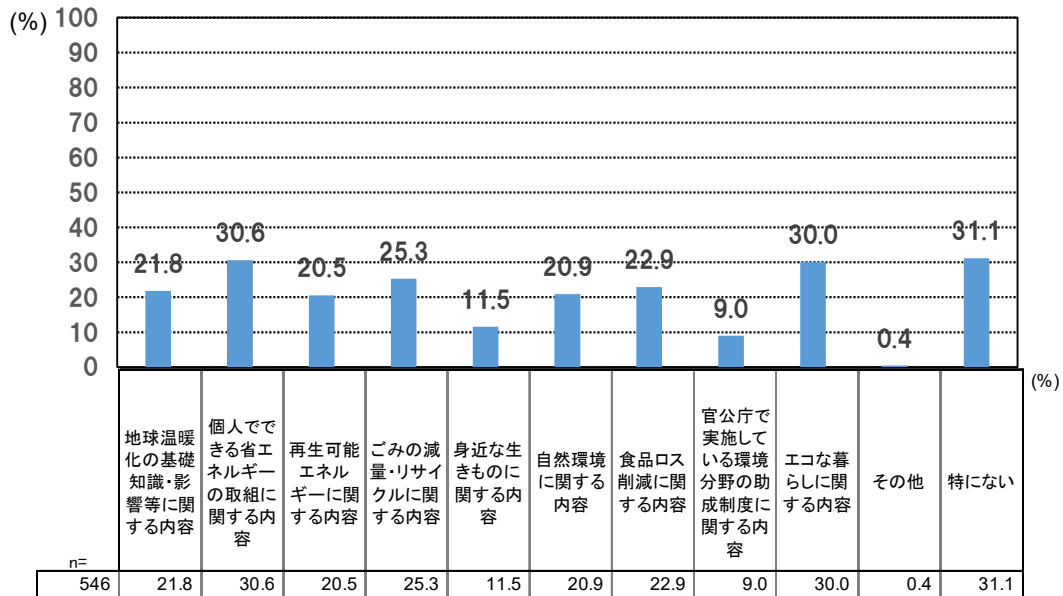
Q10-1	平成 28 年 4 月 1 日以降、家庭や商店を含むすべての消費者が電力会社や料金メニューを自由に選択できるようになりました。電力にも再生可能エネルギー等を使用した環境に配慮した電力を使用したものもあります。ご家庭の電気は環境に配慮した電力を選択していますか。
結果概要	「選択している」と回答した方は 20.7%でした。「わからない」と回答した方が 44.9%で一番多く、家庭でどのような電力を使用しているかについて把握していない方が多いことが分かりました。



Q10-2	前問で「②選択していない」と回答した方にお伺いします。選択しない理由は何ですか。(複数選択可)
結果概要	「切り替え手続きが面倒である」と回答した方が 35.6%で一番多く、次いで「価格が高い」が 23.4%でした。環境に配慮した電力の使用は、切り替え時の手間やコストがハードルとなっていることが分かりました。



Q11	あなたは、どのような内容の環境に関する講座に参加したいと思いますか（複数選択可）
結果概要	「個人でできる省エネルギーの取組に関する内容」が30.6%、「エコな暮らしに関する内容」が30%と多く、自分の生活に関係する講座に参加したいと回答する方が多い結果となりました。一方「特にない」と回答した方も31.1%いました。



（４）アンケートの総評

アンケートの結果、区民が気候変動について関心があり、その影響について実感していることが分かりました。しかし、気候変動の備えに関しては、何をしたら良いのかがわからないと感じている方が多いことが分かりました。

本戦略では、区民が気候変動の影響にどのように対策したら良いのかについて、第5章で温室効果ガスの排出を抑制する取り組み＝「緩和策」、第6章で影響に対処する取り組み＝「適応策」としてまとめました。

さらに、区が対策を取るべき影響については、集中豪雨や台風、暑熱や熱中症に関することが多いことから、第6章の「適応策」ではその対策について記載しました。

日常における地球温暖化の防止や気候変動対策として、熱中症予防や食品ロス削減、マイボトル・マイバッグの利用の取り組みについては、半数以上の方に浸透していることが分かりました。こうした取り組みをさらに多くの方に普及促進していくとともに、環境に配慮した電力への切り替えや、再生可能エネルギー機器の導入など、あと一歩踏み込んだ取り組みを推進していくことが必要であることが分かりました。

2050 としまゼロカーボン戦略

2022 年〇月発行

編集・発行 豊島区環境清掃部環境政策課

〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1

TEL 03-3981-1597 (直通)

豊島区ホームページ

<http://www.city.toshima.lg.jp/>